

JA 十日町 土壤分析に基づく施肥モデルの取組について

作物を正常に生育させるためには、土壤中の養分状態を作物の要求する量に調節するとともに、他の成分とのバランスをとらなければなりません。

そのためには、土壤の不足する養分と過剰な養分を把握する「土壤分析」が必要です。JA十日町では、土壤分析装置 EW-THA1Jを導入し、R5より土壤分析に基づいた適正な施肥を推進することにより、収量の安定・施肥コストの低減に取り組みます。

◆R4採取土分析結果について

十日町市全体ではリン酸がやや高く、加里・石灰が不足している圃場が多く見られます。地区別では、十日町地区は塩基成分が全体的に不足しており、川西・中里・しづみ地区は石灰に対し苦土が多い傾向があります。また、しづみ地区はリン酸がやや不足しています。

※上記の分析結果は傾向であり圃場によって異なります。土壤分析を行い圃場の課題に応じて対策をすることが重要です。

◆施肥モデル～中間追肥のリン酸を減らし、施肥コストを低減した栽培～

十日町・川西・しづみ地区

	肥料名	容量 (kg/袋)	施肥量 (kg/10a)	施肥成分(kg/10a)		
				N	P	K
基肥	越後の輝き有機30元肥	20	30	4.2	4.2	2.1
中間追肥	越後の輝きソイル米スター	15	20	0	0.2	1.4
穂肥	越後の輝き有機30穂肥	20	16	1.9	0.6	1.6

中里地区

	肥料名	容量 (kg/袋)	施肥量 (kg/10a)	施肥成分(kg/10a)		
				N	P	K
基肥	エコ有機ペースト043	20	40	4.0	1.6	1.2
中間追肥	越後の輝きソイル米スター	15	20	0	0.2	1.4
穂肥	越後の輝き有機30穂肥	20	16	1.9	0.6	1.6

土づくりは良品質米を作り続ける基本となります。
圃場の課題に応じて必ず散布しましょう！

※土壤診断に基づく施肥モデルの検証結果につきましては、後日HPにてお知らせします。